別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

# 教　育　研　究　業　績　書

年　月　日

氏名　太田 終勝　印

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|---|---|
| 哲学、教育学 | 芸術諸学、図画工作・美術工芸 |

## 教育上の能力に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|---|---|---|
| 1　教育方法の実践例<br>（1）児童画展審査における幼児作品部門の担当<br>（18年間、延べ総計35企画）<br>このうち、主なもの：「新潟県児童生徒絵画版画コンクール」、「妙高四季彩ジュニア展」など。 | 1991年～2005年 | 国家機関（旧上保安庁：平成15～17）、地方自治体（岡山市：平成1～2、新潟県：平成4～6、妙高・新井市：平成8～17）、企業及び任意団体（安田生命：平成1～2、上越美術教育連盟：平成5～17、ＭＯＡ美術館：平成6～8）の主催による児童画展の幼児・幼稚園児の作品の審査を担当。子どもの描画の発達段階を十分考慮し、生命感、躍動感、あるいは、鬱屈した子どもの真情が溢れる作品等を、各児童画展の規定・規約に従い、所定の点数を選定、特に優れたものには賞を与えた。 |
| （2）日本・アメリカ合衆国両国の幼稚園児の国際交流絵画展の企画と推進 | 2004年～2008年 | アメリカ合衆国ニューヨーク市クイーンズ区美術教育総括指導主事ウィリアム・カスーリ氏との協力体制により、2010年秋期を目途に、表記の国際幼稚園児絵画展開催の計画を企画・推進中である。2004年から、同氏との意見・情報交換を開始し、今後計画実現の考えである。日本国外務省・同在外公館・ユネスコ・アメリカ合衆国ニューヨーク市とのタイアップを計画している。 |
| （3）日本ジュニア美術協会諮問委員会及び上越国際ジュニア美術館準備委員会の推進 | 2002年～ | 表記委員会において、委員として、全国規模の児童画展と新潟県上越市に拠点を置く、児童画美術館の設立の推進を行っている。前者は、過去20年来、毎年東京で開催されており、後者は、近未来の設立・開館を検討中である。しかしながら、後者については、資金等現況を判断し、美術教育振興上、無理なく効果ある、コンピューター・サイト上での児童美術館の立ち上げをまず進める方向に転換しつつある。 |
| 2　作成した教科書，教材<br>（1）美術教育概要　Ⅰ | 1987年6月 | 同書「第2章　美術教育の歴史　―過去から現在に至る美術教育の道すじ―」において、17世紀：コメニウス、18世紀：ルソー、19世紀：ペスタロッチ、フレーベル、20世紀：チゼック、ローウェンフェルド、リヒトヴァルク、ケルシェンシュタイナー、モンテッソーリの思想と業績を紹介、いわゆる子ども中心主義について触れ、幼児教育の意義を述べた。B6版冊子、115頁。 |
| （2）美術科教育概説講義 | 1996年4月 | 本書は、前出上掲の書の改訂版であるが、同書「第3章　造形表現と発達段階」において、幼児の描画の発達段階について、簡略ながら、先行研究を集約しつつ、私見を述べた。B5版冊子、99頁。 |
| （3）美術教育概説講義 | 1999年6月 | 本書は、前出上掲の書の三訂版であるが、同書「第4章　付節2」において、バート、ローウェンフェルド、ケルシェンシュタイナー、リードが発表した、幼児の描画の発達段階の区分及び名称について、まとめた。B5版冊子、120頁。 |
| 3　教育上の能力に関する大学等の評価<br>なし | | |

| | | |
|---|---|---|
| 4　実務の経験を有する者についての特記事項<br>なし | | |
| 5　その他<br>なし | | |
| 職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概　　要 |
| 1　資格，免許<br>博物館学芸員資格に関するもの<br>（1）展覧会等の企画・運営 | | |
| | 1971年4月 | 山種美術館「水の詩」展の企画・運営 |
| | 1971年5月 | 山種美術館「近代の彫刻」展の企画・運営 |
| | 1971年6月 | 山種美術館「東海道五十三次展」の企画・運営 |
| | 1971年6月 | 山種美術館「上村松園展」の企画・運営（副務） |
| | 1973年10月 | 和歌山県立近代美術館「川口軌外」展の企画・運営（副務） |
| | 1974年1月 | 和歌山県立近代美術館「昭和48年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1974年2月 | 和歌山県立近代美術館第1回移動美術館「和歌山の作家展」の企画・運営 |
| | 1974年4月 | 和歌山県立近代美術館「吉田政次版画遺作展」展の企画・運営（副務） |
| | 1974年7月 | 和歌山県立近代美術館「昭和49年度前期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1974年10月 | 和歌山県立近代美術館「碧伊之助展」の企画・運営 |
| | 1975年2月 | 和歌山県立近代美術館「昭和49年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1975年3月 | 和歌山県立近代美術館「館蔵品による＜和歌山の作家＞展」の企画・運営 |
| | 1975年6月 | 和歌山県立近代美術館「昭和50年度前期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1975年9月 | 和歌山県立近代美術館「昭和50年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1975年10月 | 和歌山県立近代美術館「木下孝則作品展」の企画・運営 |
| | 1976年2月 | 和歌山県立近代美術館「1910年代における京都画壇」展の企画・運営（副務） |
| | 1976年6月 | 和歌山県立近代美術館「昭和51年度前期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1976年12月 | 和歌山県立近代美術館「昭和51年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1977年2月 | 和歌山県立近代美術館「田中恭吉展」の企画・運営 |
| | 1981年7月 | 富山県立近代美術館「第1回富山国際現代美術展」の企画・運営 |
| | 1982年4月 | 富山県立近代美術館「現代日本のポスター展」の企画・運営（副務） |
| | 1982年4月 | 富山県立近代美術館において年間約50人の実習生を指導 |
| | 1982年7月 | 富山県立近代美術館「第1回現代芸術祭―瀧口修造と戦後美術―」の企画・運営 |
| | 1983年4月 | 富山県立近代美術館において年間約50人の実習生を指導 |
| | 1984年4月 | 富山県立近代美術館において年間約50人の実習生を指導 |
| | 1984年10月 | 富山県立近代美術館「金山康喜・菅井汲・田淵安一・野見山暁治」展の企画・運営 |
| （2）美術館の設立 | 1990年4月 | 岡山県奈義町立美術館の創設、原案の提案と推進 |
| 2　特許等<br>なし | | |

| | | |
|---|---|---|
| 3　実務の経験を有する者についての特記事項<br>（1）教育系短期大学通信教育課程の図画工作科教材研究、保育内容研究絵画製作のカリキュラム作成 | 1977年5月 | 1977年5月当時の奉職先、ピーエル学園女子短期大学で通信教育課程開設をするに当たり、表記カリキュラムを作成、文部省大学局、同高等教育計画課、同教職員養成課等に提出、設置許可申請をし、翌年認可を得た。1979年4月開設以後、完成年次までの3年間は、同通信教育部面接授業はこのカリキュラムにより、実施した。 |
| （2）教育系大学の図画工作科教材研究のカリキュラム作成と授業の担当（岡山大学の場合、受講者の3分の1は、学部幼児教育専攻生。全単位の50%は、保育内容研究の単位に認定された） | 1985年4月～<br>2006年3月 | 岡山大学教育学部、上越教育大学学校教育学部において、表記科目のカリキュラムの詳細を作成、実際の授業は筆者が担当した。小学校低学年と幼稚園教育が密接不離の関係にあり、幼児教育の知見なくして、小学校教育は成立しない、また、人の人格の基礎は、幼児期に形成されるとの信念から、幼児教育に力点を置いた教育計画を立案した。 |
| （3）幼児教育に関する講話 | 1997年4月～<br>1999年3月 | 上越教育大学学校教育学部附属幼稚園園長在任期間、園長として、表記の講話（毎回1時間程度）を年6回ほど担当。研究プロジェクトや文部省委託の研究会等においても、年5回ほど講話を行った。 |
| （4）幼稚園における研究プロジェクトの企画推進及び研究会の開催 | 1997年4月～<br>1999年3月 | 上越教育大学学校教育学部附属幼稚園園長在任期間、園長として、表記の研究プロジェクトや研究会を企画推進した。こうした研究が、2000年5月の文部省研究開発学校指定となった。 |
| （5）幼稚園及び小中学校の教育実習の立案・実施・指導に関すること | 1978年4月～<br>1981年3月 | ・教育実習計画の立案と公私立校園への教育実習協力に関する交渉及び実施施行<br>ピーエル学園女子短期大学通信教育課程開設時、同課程の教育実習計画に関し、全体計画を立案。全国公私立小学校・幼稚園（全国各県１校１園ずつ）に協力を依頼。開設後はこれを実施し、完成年次、修了者全員に幼稚園・小学校各２級免許の下付を実現した。 |
| | 1985年4月～<br>2006年 | ・教育実習校園への訪問と学生指導<br>岡山大学教育学部及び上越教育大学学校教育学部において、教育実習委員会委員として、教育実習校園を訪問。校園長・教職員に協力を仰ぎ、実習生の指導を行った。実習は、上記２大学において、いずれも毎年春期、秋期２回実施。教育実習委員の委嘱は、岡山大学では、１期１回、上越教育大学では、２期２回あり、教育実習委員の委嘱を受けなかった年次においても、過去２０年間、毎年、美術コース教員として、実習校園を訪問した。 |
| 4　その他<br>なし | | |

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概　要 |
|---|---|---|---|---|
| （著書） | | | | |
| 1　田中恭吉の芸術 | 単著 | 1977年2月 | 和歌山県立近代美術館 | 萩原朔太郎の詩集『月に吠える』の挿絵で知られる夭折の版画家・詩人田中恭吉（明治２５～大正４）の伝記的事実と作品の詳細、その芸術の成立について述べた。従来、殆ど知られることのなかった作者の生い立ちについて、調査し、１人の芸術家の生涯における、幼児期・少年期の意味を掘り下げようと試みた。A4版、62頁。 |
| 2　美術科教育論 | 単著 | 1984年9月 | 造形芸術研究所 | 現代の芸術思潮を踏まえ、「保育内容（表現）」、図画工作科、美術科に通底する教科教育の理念と幼児教育（造形表現の領域）において、活用されることの多い、２０世紀美術の用語やコンセプトを解説した。A5版、156頁。 |
| 3　美術館<br>―この無知なるもの― | 共著 | 1986年5月 | サンブライト出版 | 「美術館と画廊」のセクション（139～147頁）で、美術館に関わる画廊の役割について、述べた。美術館は、社会教育機関であり、幼児から高齢者まで、あらゆる人を対象としている。「保育内容（表現）」の見学・実習の場とされることの多い美術館での作品収集の方法と哲学に触れた。造形表現や作品鑑賞は、幼児期から、徐々に、行われるべきであるが、幼稚園と美術館の活動はより密に連動させるべきと考えている。<br>尾野王清編、A5版、233頁。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 4 美術教育授要１（再掲） | 単著 | 1987年6月 | 青木書店 | 東西の幼児教育や諸学校の美術教育の歴史、これらに関連した、美術教育に係る主要な事項を解説した。いわゆる幼小連携の２編から、幼稚園教育要領（造形）や小学校学習指導要領（図画工作科）についても触れた。A6版、116頁。 |
| 5 わたくし美術館第３巻 | 共著 | 1987年6月 | 文化書房博文社 | 公立美術館の意義を再評価する企画のなか、筆者が設立に参画した笠山県立近代美術館を取り上げ，開設の経緯・展開と未来について述べた。（pp. 168～173）<br>同美術館では、幼稚園児を含めた子どもたちや両親を対象に、２０世紀美術を教材に教育的企画・展示を推進しており、「保育内容（表現）」の見学・実習の場として利用されている。尾崎正教編著，B5版、259頁。 |
| 6 自己教育に培う授業システム | 共著 | 1989年4月 | 北大路書房 | 「第１０章　美術教育の史的変遷」（pp. 115～125）を担当。「自己教育力」の観点から，美術科教育（幼稚園造形、小学校図画工作、中学校美術）を改めて見直し、戦後日本の美術教育の歴史について、述べた。岡山大学教育学部教科教育研究会編。秋山和夫他。A5版、215頁。 |
| 7 日本美術教育史研究論説 | 単著 | 1990年10月 | 東洋文庫刊行会 | 古代から現代に至る、美術家養成の制度について、その流れを、五つの項目についてまとめた。筆者は、かねて、幼児期の美術教育の意義を説め、歴史上の美術家について、個別に調査を行っていたが、本論各章には、これらに関連した原資料の裏づけがある。A5判、325頁。 |
| 8 美術・工芸教育の理論と実践 | 共著 | 1991年5月 | 福村出版 | 「第２章　第５節　鑑賞」（119～123頁）を担当。幼稚園、小中学校教諭を目指す人たちのための美術鑑賞の意義を述べた。編著者は、石原美雄。A5判、231頁。 |
| 9 Isao Ohshima | 共著 | 1991年5月 | Isao Ohshima刊行会 | 「人と作品―大島勲　その芸術の軌跡」（109～113頁）を執筆。岡山大学教育学部において、幼稚園教諭の養成に大きく貢献した同大学名誉教授故大島勲の画業と作風展開、その芸術の意味等を解説した。大島氏は、同大学教育学部附属幼稚園園長を勤め、造形教育に係る指導は高く評価されている。本書図版には、氏の豊かな愛情と感性が示される。小川尊一他。A4版変形、119頁。 |
| 10 未知との遭遇 | 共著 | 1993年4月 | 石原美雄先生の退官を記念する出版会 | 「古代における画工の職制と養成についての研究」（pp. 48-57）を執筆。主として奈良時代の画工の職階制度と画工の養成制度を紹介し，日本美術教育史研究の視点から考察した。三田村畔右，横山智也ほか36名　A5版，259頁。 |
| 11 美術科教育概説講義（再掲） | 単著 | 1996年4月 | 美術教育懇話会 | 幼稚園（造形・表現），小中学校（図画工作・美術）の美術教育に係る主たる項目を網羅し、解説した。幼児の描画の発達段階について、過去の研究の成果を紹介した。B5版，99頁。 |
| 12 美術教育概説講義（再掲） | 単著 | 1999年6月 | 美術教育懇話会 | 上掲書の三訂版である。B5版、120頁。 |
| 13 子どもの絵―成長と描画の発達の過程から― | 共著 | 2007年6月 | 美術評論社 | 乳幼児1～4歳までの描画作品5,000点から120点を選び、発達段階毎に分類し、解説を付した。編集者（執筆）、太田清勇。企画・レイアウト：包裕日菜吐，張春梅。B4判変型、94頁。 |
| （学術論文） | | | | |
| 1 下村観山の生涯と周辺 | 単著 | 1974年1月 | 和歌山県立近代美術館館報97号『美術館だより』 | 日本画家下村観山の生涯とその芸術を成立させた周辺の状況等について述べた。小論ではあるが，新出の資料を融合し、今後の研究を展望した。B2判、3頁。 |
| 2 碓伊之助の芸術 | 単著 | 1974年10月 | 和歌山県立近代美術館『碓伊之助展』 | 大正から昭和にかけて油彩、水彩、版画、陶磁器と幅広く活躍した碓伊之助（明治28年～昭和52年）の芸術について述べた。A4判変形、論文4頁、年譜4頁、作品目録3頁、図版31頁。 |
| 3 木下孝則調査資料ノートより | 単著 | 1975年10月 | 和歌山県立近代美術館『木下孝則回顧展』 | 画家木下孝則（昭和27年～昭和48年）についての調査資料により，伝記的事実を紹介した。A4判変形、論文5頁、年譜4頁、作品目録3頁、図版30頁。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 4　木下孝則芸術への試論 | 単著 | 1976年3月 | 和歌山県立近代美術館『昭和50年度年報』 | 画家木下孝則の芸術を探ろうとした。殊にそのすぐれた画作の本質の再評価を試みようとした。<br>A4判変形，論文5頁，年譜4頁，作品目録3頁，図版30頁。 |
| 5　神中糸子と工部美術学校 | 単著 | 1976年4月 | 和歌山県立近代美術館館報124号『美術館だより』 | わが国最初の本格的西洋画家神中糸子（万延元年～昭和18年）と彼女が第一期生として学んだ工部寮付属美術学校について述べ，神中糸子の芸術の成立と明治期の美術教育について触れた。本稿が神中糸子を研究レベルで紹介した最初のものとされる。B5判，3頁。 |
| 6　田中恭吉―生涯と作品― | 単著 | 1977年7月 | 『三彩』３５８号 | 田中恭吉の伝記的事実と作品について紹介し，従来語り伝えられてきた恭吉像を訂正しようとした。<br>A4判，論文4頁（pp. 30～33），図版14頁。 |
| 7　古代社会における女性の体育とスポーツ<br>―歴史的考察― | 共著 | 1979年12月 | 『ピーエル学園女子短期大学紀要』 | 東西の古代社会における女性の体育やスポーツを美術工芸品等の資料を通して紹介した。体育科教員との共著。筆者が主たる資料を収集し，執筆した。<br>共著者：新宅幸憲，明尾和代。太田が全文を訳出。新宅・明尾は訳文の検討。B5判，11頁。 |
| 8　ジョアン・ミロ「パイプを吸う男」について | 単著 | 1983年3月 | 富山県立近代美術館『収蔵作品についての報告1983』 | ジョアン・ミロの油彩画「パイプを吸う男」について，その成立の由来や作品の位置を資料によって述べた。<br>A4判変型，8頁（pp. 7～14）。 |
| 9　立嶽木村雅経の画論 | 単著 | 1983年12月 | 『古美術』68号 | 狩野派画師立嶽木村雅経の画論とその芸術が成立した背景について述べた。美術史学会発表に基づく。<br>A4判，24頁（pp. 112～135）。 |
| 10　立嶽木村雅経の作風（上） | 単著 | 1984年3月 | 『史迹と美術』543号 | 狩野派画師立嶽木村雅経の芸術の特質について述べた。<br>A5判，論文10頁（pp. 100～109），図版3頁。 |
| 11　立嶽木村雅経の作風（下） | 単著 | 1984年6月 | 『史迹と美術』545号 | 狩野派画師立嶽木村雅経の芸術の特質について述べた。<br>A5判，論文及び年譜5頁（pp. 190～204），図版4頁。 |
| 12　美術科教育における写実主義の意味―序論的考察― | 単著 | 1984年9月 | 『教育科学論叢』84-1号 | リアリズムの意味について述べた。<br>B5判，6頁（pp1～6）。 |
| 13　欧米の美術教育の現況―美術科教育の立場から― | 単著 | 1984年9月 | 『教育科学論叢』84-2号 | 欧米美術教育の現況について述べた。<br>B5判，8頁（pp1～8）。 |
| 14　菅井汲「ヴァリアシオンB-78」について | 単著 | 1985年9月 | 富山県立近代美術館『収蔵作品についての報告1983』 | 画家菅井汲の作品「ヴァリアシオンB-78」とその成立について述べ，菅井汲の芸術の特質について触れた。<br>A4判変型，6頁（pp. 67～72）。 |
| 15　美術教育史研究序説（1） | 単著 | 1985年10月 | 『岡山大学教育学部研究集録』70号 | 西欧古典古代における哲人たちの思想に見られる美術教育の理念と展開について述べ，それらが今日の具象，抽象美術の成立を精神的に支えているとする思想を紹介解説し，美術教育研究の序説とした。<br>B5判，10頁（pp. 99～108）。 |
| 16　日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究1<br>―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1985年10月 | 『岡山大学教育学部研究集録』70号 | 1976年4月に発表した「神中糸子と工部美術学校」以後の調査結果を集約した。主として神中糸子の生涯について記した。以下に続く本研究のシリーズは1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判，9頁（pp. 109～119）。 |
| 17　日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究2<br>―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1986年1月 | 『岡山大学教育学部研究集録』71号 | 神中糸子の作品について述べた。<br>B5判，8頁（pp. 29～36）。 |
| 18　日本美術教育史攷（2）古代における画工の職制と養成についての研究 | 単著 | 1986年1月 | 『岡山大学教育学部研究集録』71号 | 天平時代の画工の職制と養成の機構を造東大寺司を中心に主として正倉院文書を資料として述べた。本研究は，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判，8頁（pp. 1～8）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 19 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究1—木村立嶽雅経筆粉本を中心に— | 単著 | 1986年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』72号 | 木村立嶽雅経を生んだ狩野派画所の本質と奥画師、表画師他を含めた狩野派の全機構について述べた。以下に続く本研究のシリーズは，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判、9頁（pp.49～57）。 |
| 20 日本美術教育史攷（4）伏屋素狄研究 1—その解剖図・実験図の成立と背景— | 単著 | 1986年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』72号 | 医師、蘭学者、画家として江戸時代中期に活躍した伏屋素狄の実験図を美術教育史的観点からとりあげた。本稿では主として素狄の出自について述べた。以下に続く本研究のシリーズは，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判、9頁（pp.35～43）。 |
| 21 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究3—同校出身画家・神中糸子を中心に— | 単著 | 1986年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』73号 | 工部美術学校における授業の形態、教育内容について述べた。<br>B5判、16頁（pp.1～16）。 |
| 22 日本美術教育史攷（4）伏屋素狄研究 2 | 単著 | 1986年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』73号 | 伏屋素狄の背景にあって，影響の大きかったと思われる師友について述べた。<br>B5判、11頁（pp.17～27）。 |
| 23 日本近世における美術教材についての研究—木村立嶽雅経筆粉本を中心に— | 単著 | 1987年3月 | 『大学美術教育学会誌』19号 | 筆者が発見した木村立嶽雅経筆粉本の全てについて紹介し，それらが狩野派画所における教育課程の中で教材としてどのような位置を占めるかについて述べた。本研究は，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判、9頁（pp.17～25）。 |
| 24 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究2—木村立嶽雅経筆粉本を中心に— | 単著 | 1987年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』74号 | 木村立嶽雅経の芸術生涯を、美術教育史的観点から述べた。<br>B5判、12頁（pp.1～12）。 |
| 25 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究4—同校出身画家・神中糸子を中心に— | 単著 | 1987年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』74号 | 工部美術学校の教官、生徒について美術教育史的観点からまとめた。<br>B5判、8頁（pp.237～244）。 |
| 26 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究5—同校出身画家・神中糸子を中心に— | 単著 | 1987年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』75号 | 工部美術学校の生徒について、各自の経歴画歴等を資料に拠りまとめた。今回は、女子4人を含め11人を掲載し、1878年の松岡寿のメモがきをもとにフォンタネージ送別会出席者（男子）の一覧をも付した。<br>B5判、6頁（pp.169～174）。 |
| 27 日本美術教育史攷（4）伏屋素狄研究 3—その解剖図・実験図の成立と背景— | 単著 | 1987年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』75号 | 伏屋素狄の業績についてまとめた。特に著作について触れた。<br>B5判、6頁（pp.157～180）。 |
| 28 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究6—同校出身画家・神中糸子を中心に— | 単著 | 1987年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』76号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒7人の画歴や芸術生涯についてまとめた。今回は生徒の一人、五姓田義松について特に詳しく触れ、遺作の一覧表をも付した。<br>B5判、6頁（pp.135～140）。 |
| 29 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究3 高橋千代覚書 | 単著 | 1988年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』76号 | 木村立嶽雅経の第6子、三女高橋千代による覚書の原文の一部を頭注を付して紹介した。<br>B5判、6頁（pp.1～6）。 |
| 30 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究7—同校出身画家・神中糸子を中心に— | 単著 | 1988年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』77号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒10人について画歴、芸術生涯をまとめた。<br>B5判、6頁（pp.135～140）。 |
| 31 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究1 | 単著 | 1988年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』77号 | 近代日本の初等教育における図画教育の成立過程について述べた。明治以降より今日までを6期に分画し，今回は「第1期学制の公布と西洋図画教育の模倣時代」のうち，「学制の公布」前後の状況についてまとめた。<br>B5判、6頁（pp.25～30）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 32 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究8―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1988年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』78号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒12人について画歴、芸術生涯をまとめた。B5判、7頁（pp.137～143）。 |
| 33 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究4―木村立嶺雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1988年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』78号 | 木村立嶺雅経の作風の展開についてまとめた。B5判、6頁（pp.1～6）。 |
| 34 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究6―木村立嶺雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1988年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』79号 | 木村立嶺雅経の粉本9冊について述べた。B5判、10頁（pp.25～34）。 |
| 35 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究2 | 単著 | 1988年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』79号 | 前半では「小学校教則綱領」について触れ、後半では幕末維新の画学教育や明治初期の西洋画模倣時代の図画教育についてまとめた。B5判、6頁（pp.35～40）。 |
| 36 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究3 | 単著 | 1989年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』80号 | 明治期の図画教科書と描画用具についてまとめた。B5判、9頁（pp.1～9）。 |
| 37 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究9―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1989年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』81号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒5人の画歴に触れ、彼らの師であった画家アントニオ・フォンタネージの略歴についてまとめた。B5判、6頁（pp.39～43）。 |
| 38 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究4 | 単著 | 1989年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』81号 | 明治期の図画教科書について触れ、後半では「第2期国家主義を基本とした学制の確立と国粋保存の時代」を概観した。B5判、5頁（pp.27～31）。 |
| 39 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究10―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1989年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』82号 | 前稿にひきつづき、アントニオ・フォンタネージの略歴と遺作についてまとめた。B5判、7頁（pp.13～19）。 |
| 40 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究5 | 単著 | 1989年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』82号 | 「小学校令」、「小学校教則大綱」等に触れ、「図画講習」の設置に及んだ。B5判、7頁（pp.1～7）。 |
| 41 日本美術教育史攷（4）伏屋薫秋研究　4―その実験図の成立と特長― | 単著 | 1990年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』83号 | 伏屋薫秋の解剖図及び生理学実験記録図についてまとめた。B5判、9頁（pp.25～33）。 |
| 42 教育実習（1）―歴史的経過と現況― | 単著 | 1990年3月 | 岡山大学教育学部付属教育実習研究指導センター『教育実習研究年報』1号 | フランスの教育実習の歴史と現況について述べた。B5判、5頁（pp.73～77）。 |
| 43 中世大和地方における「絵所座」と「絵仏師」についての研究 | 単著 | 1990年3月 | 『大学美術教育学会誌』22号 | 中世大和地方の絵所座における絵師たちの動向について述べた。本研究は、1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。B5判、10頁（pp.27～36）。 |
| 44 対照年表 | 単著 | 1990年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』84号 | 日本の美術教育史を軸に西洋の美術教育に関する歴史的事項を対照させ、年表にまとめた。B5判、10頁（pp.1～10）。 |
| 45 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究6 | 単著 | 1990年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』85号 | 「図画取調掛」及び「図画調査会」について述べた。B5判、7頁（pp.15～21）。 |
| 46 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究7 | 単著 | 1991年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』86号 | 本稿前半では、東京美術学校の設置、鉛筆及び毛筆図画教育について述べ、後半では第2期の図画教材について図画教科書を中心にまとめた。B5判、6頁（pp.1～6）。 |
| 47 教育実習（2）―歴史的経過と現況― | 単著 | 1991年3月 | 岡山大学教育学部付属教育実習研究指導センター『教育実習研究年報』2号 | ソヴィエトの教育実習の歴史と現況について述べた。B5判、8頁（pp.11～18）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 48 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究Ⅱ | 単著 | 1991年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』88号 | 本研究では，明治期のうち，第2期の図画教科書についてまとめた。後半では，図画教育と関連ある手工教育の創始について触れた。<br>B5判，7頁（pp. 1～7）。 |
| 49 学校と美術館<br>―相互の連携に向けて― | 単著 | 1992年9月 | 『美術館教育研究』3巻-3号 | 美術教育における学校と美術館の連携の重要性を解説した。特に鑑賞教育は今後美術教育の基盤の一つとして重要視されるであろうがその中心となるのは，美術館教育であろう。今後の美術教育の発展の鍵となる課題であると説えた。<br>A4判，4頁（pp. 6～9）。 |
| 50 教育鑑賞への提言 | 単著 | 1993年4月 | 『フォルム』226号 | 鑑賞教育を推進するためには，美術館の利用を通しての実際の作品の紹介と，美術教科書の図版等を使用しての，必要最小限の美術史の知識の注入が有効であろうと述べた。美術の本質を子どもたちに理解させるには，これが最重要であることを述べた。<br>B5判，4頁（pp. 2～5）。 |
| 51 粉本研究―木村立嶽雅話筆「皇朝名画品山水編図」 | 単著 | 1994年1月 | 『史遊と美術』641号 | 近世末，明治初年に活躍した狩野派画師木村立嶽雅話の表記粉本の全容を紹介，その位置と意味とを論じた。<br>A5判，論文及び図版19頁（pp. 16～34）。 |
| 52 描画能力と知能の発達に関する相関分析的研究 | 単著 | 1995年3月 | 『大学美術教育学会誌』27号 | ひとの描画能力はその精神年齢（MA）に相応の発達段階にあることを，優秀児と知的障害児双方の事例によって証明した。本研究は1994年11月28日，アメリカ合衆国インディアナ州ニューハーモニーにおける「アメリカ美術教育研究大会」で口頭発表した。<br>B5判，10頁（pp. 265～274）。 |
| 53 描画能力と知能の発達に関する相関分析的研究<br>―精神遅滞児を中心に― | 単著 | 1996年3月 | 『大学美術教育学会誌』28号 | 特に精神遅滞児について述べた。IQ7～10，IQ20～30，IQ35～45の3群に分けて検討し，それぞれが，特定の描画の段階に留まり，生涯それ以上発達歩のないことを証明した。B5判，10頁（pp. 235～244）。 |
| 54 描画能力と知能の発達に関する相関分析的研究 | 単著 | 1997年2月 | 『大学美術教育学会誌』29号 | 人に知的障害がある場合，その人の描画は，その人の精神年齢相応の描画の発達段階に留まっていることを，資料によって証明した。<br>B5判，9頁（pp. 175～183）。 |
| 55 クリスト芸術の構想と展開をめぐって | 単著 | 1998年12月 | 『美と育』4号 | アメリカ，ニューヨークを拠点に世界で活躍する現代作家クリストの芸術について，その本質をまとめた。<br>A4判，6頁（pp. 21～26）。 |
| 56 金山康喜の人と芸術をめぐって | 単著 | 2000年7月 | 『金山康喜』朝日新聞社 | 1960年代に活躍し，夭折した画家金山康喜の芸術についてまとめた。金山は新進気鋭の経済学者としても嘱望された多才の人であった。<br>A4判，5頁（pp. 88～92）。 |
| 57 久保貞次郎論―創造美育活動初期まで | 単著 | 2001年10月 | 『上越教育大学研究紀要』21-1号 | 第二次大戦後，創造主義美術教育を創始し，全国的な活動に展開した久保貞次郎の生涯をまとめた。<br>B5判，11頁（pp. 369～379）。 |
| 58 久保貞次郎論―初期著作を中心に | 単著 | 2002年3月 | 『上越教育大学研究紀要』21-2号 | 久保貞次郎の初期の評論・エッセイを中心に，彼の思索の跡を追った。<br>B5判，9頁（pp. 477～485）。 |
| 59 久保貞次郎論―初期の交友を通して | 単著 | 2002年10月 | 『上越教育大学研究紀要』22-1号 | 久保の初期の交友を通して，彼の芸術活動がどのように展開していったかを振り返った。<br>B5判，8頁（pp. 37～44）。 |
| 60 久保貞次郎論―初期の交友・瑛九を中心に | 単著 | 2003年3月 | 『上越教育大学研究紀要』22-2号 | 久保の友友・瑛九とその交流について述べた。<br>A4判，7頁（pp. 315～321）。 |
| 61 久保貞次郎論―ライトとミラーの周辺 | 単著 | 2003年9月 | 『上越教育大学研究紀要』23-1号 | 久保がアメリカで直接面識を得たライトとミラーについて述べた。この2人によって，久保の芸術への思いは深められていった。<br>A5判，12頁（pp. 303～314）。 |
| 62 久保貞次郎論―ヴィオラとチイゼックをめぐって | 単著 | 2004年3月 | 『上越教育大学研究紀要』23-2号 | 久保が思想上，深く影響を受けたヴィオラとチイゼックについて述べた。<br>A5判，10頁（pp765～774）。 |
| 63 久保貞次郎論―小コレクター運動と版画収集をめぐって | 単著 | 2004年9月 | 『上越教育大学研究紀要』24-1号 | 久保の活動の核ともいえる小コレクター運動について述べた。<br>B5判，11頁（pp. 219～229）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 64 馬頭観世音菩薩考ー儀軌・図像収載出図像から見た越後柏崎石彫諸仏ー | 単著 | 2005年8月 | 『史迹と美術』757号 | 柏崎市内に見く見られる馬頭観音の石仏を調査し、紹介した。<br>A5判，11頁（pp.262～272） |
| 65 孔雀明王経法とその図像表現をめぐって | 単著 | 2007年6月 | 『史迹と美術』763号 | 孔雀明王経法の今日的意味を図像の作例について解説した。<br>A5判，10頁（pp.1～10）。 |
| （その他） | | | | |
| 1 移動美術館開催にあたって | 単著 | 1974年2月 | 和歌山県立近代美術館館報98号<br>『美術館だより』 | 移動美術館に係る展示解説。移動美術館開設の理念を述べ、和歌山県出身作家の紹介も行った。<br>B5判，2頁。 |
| 2 版画芸術の流れ | 単著 | 1974年4月 | 和歌山県立近代美術館館報100号<br>『美術館だより』 | 東西の版画史を略述し、日本の明治末・大正初期の創作版画の史的意義、昭和期の版画団体史、第二次大戦後の国際的状況や技法、イズムの多様化にも触れた。種々の新出資料を短文にまとめた。<br>B5判，2頁。 |
| 3 セザンヌ展 | 単著 | 1974年7月 | 和歌山県立近代美術館館報102号<br>『美術館だより』 | 特別企画展、展示解説。セザンヌの画歴と作品制作原理について触れた。<br>B5判，1頁。 |
| 4 和歌山から巣立った主要作家の世界 | 単著 | 1974年7月 | 和歌山県立近代美術館館報103号<br>『美術館だより』 | 常設企画展に係る展示解説。和歌山県出身作家の芸術世界を新資料によりつつ紹介した。<br>B5判，2頁。 |
| 5 谷伊之助の絵画と陶芸 | 単著 | 1974年8月 | 和歌山県立近代美術館館報104号<br>『美術館だより』 | 特別企画展に係る展示解説。大正末、昭和初期、画家として活躍する谷伊之助の芸術世界を紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 6 聖なるモノグラムについて | 単著 | 1975年2月 | 和歌山県立近代美術館館報110号<br>『美術館だより』 | 古代・中世以来のキリスト教美術におけるモノグラムの実例について整理し、美術鑑賞の手掛かりとして紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 7 移動美術館開催にあたって | 単著 | 1976年6月 | 和歌山県立近代美術館館報126号<br>『美術館だより』 | 移動美術展に係る展示解説。<br>B5判，3頁。 |
| 8 田中恭吉展開催にあたって | 単著 | 1977年2月 | 和歌山県立近代美術館館報128号<br>『美術館だより』 | 特別企画展の紹介。<br>B5判，2頁。 |
| 9 天才版画家の生涯　夭折した田中恭吉 | 単著 | 1977年3月 | 読売新聞文化欄関西版 | 田中恭吉及び田中恭吉展についての紹介。 |
| 10 田中恭吉展をおえて | 単著 | 1977年4月 | 和歌山県立近代美術館館報135号 | 特別企画展の総括。<br>B5判，2頁。 |
| 11 古代西洋社会における女性とスポーツ（1）（リート・ホーウェル） | 単著 | 1979年7月 | ピーエル学園女子短期大学通信教育部　補助教材『マイフレンド』5号 | "Woman and Sports in Ancient Western World"（Reat Howell）の和訳<br>A5判，10頁（pp.30-39）。 |
| 12 古代西洋社会における女性とスポーツ（2）（リート・ホーウェル） | 単著 | 1979年12月 | ピーエル学園女子短期大学通信教育部　補助教材『マイフレンド』5号 | "Woman and Sports in Ancient Western World"（Reat Howell）の和訳。前稿の続編。<br>A5判，16頁。 |
| 13 A Breath of International Creative Art for Toyama (Masataka Ogawa) | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『第1回富山国際現代美術展』 | 「国際的な創造の息吹を富山に」（小川正隆）の英訳<br>A4判変形，5頁（pp.6-10）。 |
| 14 富山国際現代美術展によせて（ポントウス・フルテン）序文　フランス現代美術の諸相（アルフレッド・パックマン）本文 | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『第1回富山国際現代美術展』 | "Quelques Aspects de l'Art Actuel en France"（Alfred Pacquement）の和訳。<br>A4判変形，6頁（pp.39-44）。 |
| 15 マリノ・マリーニ「ある情想のかたち」 | 単著 | 1981年7月 | 富山県公報『とやま』150号 | 作品解説。マリノ・マリーニの人と作品について述べた。<br>B5判，2頁。 |
| 16 木村立獄ーその画業にふれてー | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』創刊号 | 近世末、明治にかけて活躍した狩野派画師木村立獄（文政11年～明治23年）の画業について述べ、その後の研究の契機となる新出資料の紹介を行った。<br>B5判，2頁。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 17 第1回現代芸術祭<br>瀧口修造と戦後美術 | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』５号 | 特別企画展，展示解説。戦後日本の現代美術を総括する意図のもと，企画を立案した。<br>B5判，2頁。 |
| 18 マルク・シャガール<br>「山羊を抱く男」 | 単著 | 1981年7月 | 北日本新聞文化欄 | 作品解説。シャガールの代表作で，富山県立近代美術館所蔵の本作品を紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 19 アンディ・ウォーホル<br>「マリリン・モンロー」 | 単著 | 1981年7月 | 北日本新聞文化欄 | 作品解説。ポップアートの旗手ウォーホルの富山県立近代美術館所蔵の作品を紹介し，アメリカ現代美術を概観した。<br>B5判，1頁。 |
| 20 ジャコモ・マンズー<br>「着衣の少女」 | 単著 | 1981年11月 | 富山県公報『とやま』154号 | 随想，作品解説。イタリアの現代具象彫刻家マンズーの代表作の富山県立近代美術館収蔵を機に紹介し，解説した。<br>B5判，2頁。 |
| 21 富山県立近代美術館の活動 | 単著 | 1981年12月 | 『博物館研究』16巻12号 | 新設された富山県立近代美術館の作品収集，調査研究活動について，現状と今後の方針を述べた。<br>太田博勝担当部分<br>（1）収集活動<br>（2）調査研究活動<br>B5判，5頁（pp. 30～32, 34～35）。 |
| 22 瀧口修造「私の心臓は時を刻む」 | 単著 | 1982年7月 | 富山県公報『とやま』162号 | 随想，作品解説。戦後日本の美術界を主導してきた瀧口修造自らが造ったデカルコマニー作品の逸作を紹介した。富山県立近代美術館所蔵作品。<br>B5判，2頁。 |
| 23 ジャック・ヴィヨン | 単著 | 1982年7月 | 月間『あした』7-1982 | 随想，作品解説。デュシャン兄弟の1人，ジャック・ヴィヨンの芸術を，富山県立近代美術館所蔵作品の解説も兼ねて紹介した。<br>B5判，2頁。 |
| 24 瀧口修造のこと | 単著 | 1982年9月 | 富山県立近代美術館『プリズム』２号 | 随想，作品解説。瀧口修造の生涯と人となりを，関連の作品の解説を併せて述べた。<br>B5判，1頁。 |
| 25 豊秋半二「深山回情」 | 単著 | 1982年10月 | 富山県公報『とやま』165号 | 随想，作品解説。豊秋半二の代表作で，富山県保有の同作品を紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 26 脇田和「鳥寄せ」 | 単著 | 1983年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』９号 | 随想，作品解説。脇田和の昭和初年の同作品を紹介した。同作品は，同年購入した富山県立近代美術館作品。<br>B5判，1頁。 |
| 27 海外美術館視察<br>イタリア | 単著 | 1983年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』９号 | 極彩報告も兼ねたエッセー。イタリア政府招請の同国美術・文化財施設視察旅行（同年5月）の報告である。3週間にわたり，イタリア半島（カセルタ～フィレンツェ）20都市をバスと列車で巡った。同行者は，外交官ジオルジオ・デ・マルキス氏，通訳官古川上子氏，全国公立美術館学芸員9名であった。<br>B5判，1頁。 |
| 28 反芸術 | 単著 | 1983年11月 | 富山県立近代美術館『どおむ』１０号 | 現代の芸術用語の解説。用語を通して現代美術を伝えようとした。<br>B5判，１頁。 |
| 29 松尾敏男「井波」 | 単著 | 1983年12月 | 富山県公報『とやま』179号 | 随想，作品解説。松尾敏男の代表作で，富山県井波で取材した同作品を解説した。<br>B5判，2頁。 |
| 30 パブロ・ピカソ<br>「肘かけ椅子の女」 | 単著 | 1983年12月 | 月刊『PL』83-12 | 随想，作品解説。ピカソの新古典主義時代の世界に誇る傑作「肘かけ椅子の少女」を解説した。同作品は，富山県立近代美術館の所蔵。<br>B5判，2頁。 |
| 31 金山康喜，宮井浩，田部安一，野見山暁治展 | 単著 | 1984年4月 | 富山県立近代美術館『どおむ』１１号 | 特別企画展に係る展示解説。1960年後半，パリで画家修業をした4人の作家について，回顧的企画を組んだ。この企画の趣旨と主要な作品について解説した。<br>B5判，2頁。 |
| 32 金山康喜「静物」 | 単著 | 1984年4月 | 北日本新聞<br>日曜ギャラリー | 作品解説。夭折の画家金山康喜の代表作を解説した。富山県立近代美術館所蔵作品。 |
| 33 金山康喜「静物－U」 | 単著 | 1984年4月 | 北日本新聞<br>日曜ギャラリー | 作品解説。夭折の画家金山康喜の代表作を解説した。富山県立近代美術館所蔵作品。 |
| 34 あれか，これか<br>（トレルス・アンデルセン） | 単著 | 1984年7月 | 富山県立近代美術館『第2回富山国際現代美術展』 | "Either…or…"（Truels Andersen）の和訳。A4判変形，4頁（pp. 72～75）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 35 ジョアン・ミロ「パイプを吸う男」 | 単著 | 1984年8月 | 北国新聞、富山新聞「名品小径」（同時掲載） | 作品解説。ミロの代表作で、富山県立近代美術館所蔵の同作品を解説し、ミロ芸術の本質を述べた。 |
| 36 前田常作「人間誕生 No.5」 | 単著 | 1984年10月 | 富山県『職員だより』85号 | 随想。作品解説。富山県出身画家前田常作の初期作品を解説した。富山県立近代美術館所蔵作品。B5判、2頁。 |
| 37 アイデンティティの誕生―美術館学芸員について― | 単著 | 1987年10月 | 芸術批評誌『オリヴィア』 | 筆者が、2つの美術館に勤務した体験から美術館学芸員として「アイデンティティ」を確立することについて、二・三の感想を述べた。B5判、2頁。 |
| 38 心をいやす場所 | 単著 | 1991年3月 | 社団法人富山県精神保健協会『こころの健康』 | 人の心のもろさや、心をいやすに有効な「場」を筆者が見聞した体験を踏まえて述べた。末尾に美術教育の可能性について触れた。B5判、3頁。 |
| 39 磯部錦司展 | 単著 | 1993年3月 | 『新潟日報』 | 上越教育大学大学院修了生で現代作家の磯部錦司の個展が開催されるに当たり、その芸術と作品を紹介した。君は、日本海美術展（富山県立近代美術館）で大賞を受けるなど、現在注目されつつある作家。優れた中学校美術教師でもある。 |
| 40 学校と美術館 | 単著 | 1994年7月 | 『アートエデュケーション』 | 学校現場と美術館の連携を具体例を挙げて述べた。美術科がその真の意味を問い、その理想や価値を実現するためには、美術という基盤を共有する美術館との提携・連携が有効と思われる。A5判、1頁。 |
| 41 子どもの主体的・創造的な「学び」について | 単著 | 1994年12月 | 『教育創造』118号 | 新しい教育観に立った子どもの主体的・創造的な「学び」について解説し、教育現場での実践が今後どうあるべきかを考えた。A5判、6頁（pp.6～11）。 |
| 42 地方の意味と価値 | 単著 | 1995年2月 | 『ナーダ』VOL.3 | 地方にあって芸術を志す意味と価値とについて論じた。地方に住む作家たちが、地方という「状況」を生かしながら、質の高い芸術を創造することは可能だろうか。「地方」の意味を問うた。A5判、4頁（pp.35～38）。 |
| 43 今後の国際交流に期待して | 単著 | 1996年2月 | 『インディアナ州美術教育視察報告書』1994.10.23～11.5 | インディアナ州と上越市の両美術教育団体の交流とその成果を報告した。A4判、2頁（pp.10～11）。 |
| 44 小学校図画工作科の授業分析「みんなの遊びを描こう」 | 単著 | 1996年3月 | 『教育創造』119号 | 鑑賞教育についての授業（上越教育大学附属小学校梅澤崇教諭による）を分析し、その意味を問うた。子どもたちが企画した美術展や従来の考えにとらわれない古典鑑賞など、未来の美術教育を占う多様な要素を検討した。A5判、2頁（pp.68～69）。 |
| 45 上越大会に期待して | 単著 | 1995年11月 | 『第29回新潟県美術教育研究会 伸びやかな表現と鑑賞の高まりを求めて』 | 同研究会の趣旨を体し、大学教員の立場から美術教育の意義を述べた。A4判、1頁。 |
| 46 美術の教育内容をスリム化するとすればどうすればよいか | 単著 | 1996年7月 | 教育開発研究所『スリムな学校への転換』2号 | 美術科の教育内容のスリム化について提案した。A4判、4頁（pp.183～186）。 |
| 47 美術科において教育から学習への転換を図るにはどうしたらよいか | 単著 | 1996年11月 | 教育開発研究所『スリムな学校への転換』4号 | 子どもの主体的な学習のあり方について、美術科の立場から具体案を提示した。A4判、4頁（pp.122～125）。 |
| 48 書評： 新刊紹介・鬼丸吉弘著『創造的人間形成のために―子どもの絵を考える―』（勁草書房） | 単著 | 1997年2月 | 『美育文化』（47-2） | 本書評は、表記の書の著者・鬼丸吉弘氏から依頼を受け、『美育文化』誌（平成9年2月号）に執筆し、掲載されたものである。原著は、幼児の描画のスキルの発達を中心に、最新の知見をまとめたもので、高い評価を得ている。B5判、1頁（p.62）。 |
| 49 図画工作・美術における教育課程の柔軟化を図るリーダーシップ | 単著 | 1999年2月 | 教育開発研究所『新しい学校を創るリーダーシップ』 | 従来の形にとらわれない柔軟でコンパクトな図工・美術の教育課程とはいかなるものかを考えた。5頁（pp.156～161）。 |
| 50 美術教育のすすめ―生命科学的見地から― | 単著 | 2002年10月 | 『上越タイムス』 | 生命科学の観点から、美術教育が大切であることを論じた。1頁。 |
| 51 宋画研究 | 単著 | 2002年10月 | 『上越芸術彙報』1号 | 中国絵画の最高峰とも考えられる南北宋画について紹介した。A4判、2頁（pp.9～10）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 52 日本理論心理学会第48回全国大会開催にあたって（大会委員長） | 単著 | 2002年11月 | 『日本理論心理学会全国大会要項』 | 学会の開催趣旨を、専門の立場から述べた。A4判、1頁。 |
| 53 造形芸術・美術は教科たりえるか | 単著 | 2002年11月16日・17日 | 日本理論心理学会『発表要旨集』 | 学会口頭発表の概要。美術科の存在の意義を論じた。A4判、1頁。 |
| 54 造形芸術・美術は教科たりえるか | 単著 | 2003年3月 | 『理論心理学研究』 | 同年度の学会での口頭発表の要旨をもとに、当該教科の存在の意味を述べ、存続の危機について所感を示した。A4判、1頁。 |
| 55 杉みき子童話作品（英訳及び英米人によるDVD吹き込みについて監修） | 共著 | 2003年11月 | 高田文化協会 | 高田文化協会創立30周年記念事業の一環として、童話作品の英訳と英語での朗読の監修を行った。 |
| 56 数々の感動「みずえ」に託し | 単著 | 2004年1月17日 | 『新潟日報』 | 小林新治水彩画展展評。「にじみ」の原理を応用した制作原理に言及した。 |
| 57 越後高田の風物、三十数点に | 単著 | 2004年8月2日 | 『新潟日報』 | 渡部等油絵展展評。作者のすぐれた画作を紹介した。 |
| 58 時の扉開く玉手箱／渡部等・国見修二「ふるさとの記憶―折り―」書評 | 単著 | 2004年10月17日 | 『新潟日報』 | 書評。詩と画を融合した本書の魅力と意義を説いた。 |
| 59 そこかしこに秋いと恋しし | 単著 | 2005年9月27日 | 『新潟日報』 | 渡辺等展展評。作品のもつ暖かさ、作者が作品に託した思いを解説した。 |
| 60 上越「お馬出し通り」アート飾り町おこし | 単著 | 2005年10月6日 | 『新潟日報』 | 地域振興の立場から「お馬出し」の意味と歴史を紹介し、町興しの意義を説いた。 |
| 61 「お馬出し」は幸せのシンボル | 単著 | 2006年4月16日 | 『上越タイムス』 | 「お馬出し」の意味を具体的に説明した。 |
| 62 周到な構成で感銘と愛表現 | 単著 | 2006年7月28日 | 『新潟日報』 | 渡辺等油絵展展評。構成力の見事さを解説した。 |
| 63 私と美術とのかかわり | 単著 | 2007年1月 | 『こみていす』22号 | 幼時体験から、美術とのかかわりを述べ、美術の魅力に触れた。A4版、1/2頁。 |

別記様式第４号（その２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

# 教　育　研　究　業　績　書

年　月　日

氏名　太田 終勝　印

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|---|---|
| 哲学、教育学 | 芸術諸学、図画工作・美術工芸 |

## 教育上の能力に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|---|---|---|
| 1　教育方法の実践例<br>（１）児童画展審査における幼児作品部門の担当<br>（18年間、延べ総計35企画）<br>このうち、主なもの：「新潟県児童生徒絵画版画コンクール」、「妙高四季彩ジュニア展」など。 | 1991年～2005年 | 国家機関（海上保安庁：平成15～17）、地方自治体（岡山市：平成1～2、新潟県：平成4～6、妙高・新井市：平成8～17）、企業及び任意団体（安田生命：平成1～2、上越美術教育連盟：平成5～17、ＭＯＡ美術館：平成6～8）の主催による児童画展の幼児・幼稚園児の作品の審査を担当。子どもの描画の発達段階を十分考慮し、生命感、躍動感、あるいは、鬱屈した子どもの真情が溢れる作品等を、各児童画展の規定・規約に従い、所定の点数を選定、特に優れたものには賞を与えた。 |
| （２）日本・アメリカ合衆国両国の幼稚園児の国際交流絵画展の企画と推進 | 2004年～2008年 | アメリカ合衆国ニューヨーク市クイーンズ区美術教育総括指導主事ウィリアム・カスーリ氏との協力体制により、2010年秋期を目途に、表記の国際幼稚園児絵画展開催の計画を企画・推進中である。2004年から、同氏との意見・情報交換を開始し、今後計画実現の考えである。日本国外務省・同在外公館・ユネスコ・アメリカ合衆国ニューヨーク市とのタイアップを計画している。 |
| （３）日本ジュニア美術協会諮問委員会及び上越国際ジュニア美術館準備委員会の推進 | 2002年～ | 表記委員会において、委員として、全国規模の児童画展と新潟県上越市に拠点を置く、児童画美術館の設立の推進を行っている。前者は、過去20年来、毎年東京で開催されており、後者は、近未来の設立・開館を検討中である。しかしながら、後者については、資金等現況を判断し、美術教育振興上、無理なく効果ある、コンピューター・サイト上での児童美術館の立ち上げをまず進める方向に転換しつつある。 |
| 2　作成した教科書，教材<br>（１）美術教育概要　Ⅰ | 1987年6月 | 同書「第2章　美術教育の歴史　―過去から現在に至る美術教育の道すじ―」において、17世紀：コメニウス、18世紀：ルソー、19世紀：ペスタロッチ、フレーベル、20世紀：チゼック、ローウェンフェルド、リヒトヴァルク、ケルシェンシュタイナー、モンテッソーリの思想と業績を紹介、いわゆる子ども中心主義について触れ、幼児教育の意義を述べた。B6版冊子、115頁。 |
| （２）美術科教育概説講義 | 1996年4月 | 本書は、前出上掲の書の改訂版であるが、同書「第3章　造形表現と発達段階」において、幼児の描画の発達段階について、簡略ながら、先行研究を集約しつつ、私見を述べた。B5版冊子、99頁。 |
| （３）美術教育概説講義 | 1999年6月 | 本書は、前出上掲の書の三訂版であるが、同書「第4章　付節2」において、パート、ローウェンフェルド、ケルシェンシュタイナー、リードが発表した、幼児の描画の発達段階の区分及び名称について、まとめた。B5版冊子、120頁。 |
| 3　教育上の能力に関する大学等の評価<br>なし | | |

| | | |
|---|---|---|
| 4　実務の経験を有する者についての特記事項<br>なし | | |
| 5　その他<br>なし | | |
| 職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概　　要 |
| 1　資格，免許<br>博物館学芸員資格に関するもの<br>（1）展覧会等の企画・運営 | | |
| | 1971年4月 | 山種美術館「水の詩」展の企画・運営 |
| | 1971年5月 | 山種美術館「近代の彫刻」展の企画・運営 |
| | 1971年6月 | 山種美術館「東海道五十三次展」の企画・運営 |
| | 1971年6月 | 山種美術館「上村松園展」の企画・運営（副務） |
| | 1973年10月 | 和歌山県立近代美術館「川口軌外」展の企画・運営（副務） |
| | 1974年1月 | 和歌山県立近代美術館「昭和48年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1974年2月 | 和歌山県立近代美術館第1回移動美術館「和歌山の作家展」の企画・運営 |
| | 1974年4月 | 和歌山県立近代美術館「吉田政次版画遺作展」展の企画・運営（副務） |
| | 1974年7月 | 和歌山県立近代美術館「昭和49年度前期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1974年10月 | 和歌山県立近代美術館「碧伊之助展」の企画・運営 |
| | 1975年2月 | 和歌山県立近代美術館「昭和49年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1975年3月 | 和歌山県立近代美術館「館蔵品による＜和歌山の作家＞展」の企画・運営 |
| | 1975年6月 | 和歌山県立近代美術館「昭和50年度前期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1975年9月 | 和歌山県立近代美術館「昭和50年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1975年10月 | 和歌山県立近代美術館「木下孝則作品展」の企画・運営 |
| | 1976年2月 | 和歌山県立近代美術館「1910年代における京都画壇」展の企画・運営（副務） |
| | 1976年6月 | 和歌山県立近代美術館「昭和51年度前期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1976年12月 | 和歌山県立近代美術館「昭和51年度後期　和歌山県立近代美術館常設企画展」の企画・運営 |
| | 1977年2月 | 和歌山県立近代美術館「田中恭吉展」の企画・運営 |
| | 1981年7月 | 富山県立近代美術館「第1回富山国際現代美術展」の企画・運営 |
| | 1982年4月 | 富山県立近代美術館「現代日本のポスター展」の企画・運営（副務） |
| | 1982年4月 | 富山県立近代美術館において年間約50人の実習生を指導 |
| | 1982年7月 | 富山県立近代美術館「第1回現代芸術懇一瀧口修造と戦後美術一」の企画・運営 |
| | 1983年4月 | 富山県立近代美術館において年間約50人の実習生を指導 |
| | 1984年4月 | 富山県立近代美術館において年間約50人の実習生を指導 |
| | 1984年10月 | 富山県立近代美術館「金山康喜・菅井汲・田淵安一・野見山暁治」展の企画・運営 |
| （2）美術館の設立 | 1990年4月 | 岡山県奈義町立美術館の創設、原案の提案と推進 |
| 2　特許等<br>なし | | |

| | | |
|---|---|---|
| 3　実務の経験を有する者についての特記事項<br>（1）教育系短期大学通信教育課程の図画工作科教材研究、保育内容研究絵画製作のカリキュラム作成 | 1977年5月 | 1977年5月当時の奉職先、ピーエル学園女子短期大学で通信教育課程開設をするに当たり、表記カリキュラムを作成、文部省大学局、同高等教育計画課、同教職員養成課等に提出、設置許可申請をし、翌年認可を得た。1979年4月開設以後、完成年次までの3年間は、同通信教育部面接授業はこのカリキュラムにより、実施した。 |
| （2）教育系大学の図画工作科教材研究のカリキュラム作成と授業の担当（岡山大学の場合、受講者の3分の1は、学部幼児教育専攻生。全単位の50%は、保育内容研究の単位に認定された） | 1985年4月～<br>2006年3月 | 岡山大学教育学部、上越教育大学学校教育学部において、表記科目のカリキュラムの詳細を作成、実際の授業は筆者が担当した。小学校低学年と幼稚園教育が密接不離の関係にあり、幼児教育の知見なくして、小学校教育は成立しない、また、人の人格の基礎は、幼児期に形成されるとの信念から、幼児教育に力点を置いた教育計画を立案した。 |
| （3）幼児教育に関する講話 | 1997年4月～<br>1999年3月 | 上越教育大学学校教育学部附属幼稚園園長在任期間、園長として、表記の講話（毎回1時間程度）を年6回ほど担当。研究プロジェクトや文部省委託の研究会等においても、年5回ほど講話を行った。 |
| （4）幼稚園における研究プロジェクトの企画推進及び研究会の開催 | 1997年4月～<br>1999年3月 | 上越教育大学学校教育学部附属幼稚園園長在任期間、園長として、表記の研究プロジェクトや研究会を企画推進した。こうした研究が、2000年5月の文部省研究開発学校指定となった。 |
| （5）幼稚園及び小中学校の教育実習の立案・実施・指導に関すること | 1978年4月～<br>1981年3月 | ・教育実習計画の立案と公私立校園への教育実習協力に関する交渉及び実施施行<br>ピーエル学園女子短期大学通信教育課程開設時、同課程の教育実習計画に関し、全体計画を立案。全国公私立小学校・幼稚園（全国各県１校１園ずつ）に協力を依頼。開設後はこれを実施し、完成年次、修了者全員に幼稚園・小学校各２級免許の下付を実現した。 |
| | 1985年4月～<br>2006年 | ・教育実習校園への訪問と学生指導<br>岡山大学教育学部及び上越教育大学学校教育学部において、教育実習委員会委員として、教育実習校園を訪問。校園長・教職員に協力を仰ぎ、実習生の指導を行った。実習は、上記２大学において、いずれも毎年春期、秋期２回実施。教育実習委員の委嘱は、岡山大学では、１期１回、上越教育大学では、２期２回あり、教育実習委員の委嘱を受けなかった年次においても、過去２０年間、毎年、美術コース教員として、実習校園を訪問した。 |
| 4　その他<br>なし | | |

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概　要 |
|---|---|---|---|---|
| （著書） | | | | |
| 1　田中恭吉の芸術 | 単著 | 1977年2月 | 和歌山県立近代美術館 | 萩原朔太郎の詩集『月に吠える』の挿絵で知られる夭折の版画家・詩人田中恭吉（明治２５～大正４）の伝記的事実と作品の詳細、その芸術の成立について述べた。従来、殆ど知られることのなかった作者の生い立ちについて、調査し、１人の芸術家の生涯における、幼児期・少年期の意味を掘り下げようと試みた。A4版、62頁。 |
| 2　美術科教育論 | 単著 | 1984年9月 | 造形芸術研究所 | 現代の芸術思潮を踏まえ、「保育内容（表現）」、図画工作科、美術科に通底する教科教育の理念と幼児教育（造形表現の領域）において、活用されることの多い、２０世紀美術の用語やコンセプトを解説した。A5版、156頁。 |
| 3　美術館<br>―この無おなるもの― | 共著 | 1986年5月 | サンブライト出版 | 「美術館と画廊」のセクション（139～147頁）で、美術館に関わる画廊の役割について、述べた。美術館は、社会教育機関であり、幼児から高齢者まで、あらゆる人を対象としている。「保育内容（表現）」の見学・実習の場とされることの多い美術館での作品収集の方法と哲学に触れた。造形表現や作品鑑賞は、幼児期から、徐々に、行われるべきであるが、幼稚園と美術館の活動はより密に連動させるべきと考えている。<br>尾野王清編、A5版、233頁。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 4 美術教育概要１（再掲） | 単著 | 1987年6月 | 青木書店 | 東西の幼児教育や諸学校の美術教育の歴史、これらに関連した、美術教育に係る主要な事項を解説した。いわゆる幼小連携の立場から、幼稚園教育要領（造形）や小学校学習指導要領（図画工作科）についても触れた。A6版、116頁。 |
| 5 わたくし美術館第３巻 | 共著 | 1987年6月 | 文化書房博文社 | 公立美術館の意義を再評価する企画のなか、筆者が設立に参画した富山県立近代美術館を取り上げ、開設の経緯・展開と未来について述べた。（pp. 168～173）<br>同美術館では、幼稚園児を含めた子どもたちや両親を対象に、２０世紀美術を教材に教育的企画・展示を推進しており、「保育内容（表現）」の見学・実習の場として利用されている。尾崎正教編著、B5版、259頁。 |
| 6 自己教育に培う授業システム | 共著 | 1989年4月 | 北大路書房 | 「第１０章　美術教育の史的変遷」（pp. 115～125）を担当。「自己教育力」の観点から、美術科教育（幼稚園造形、小学校図画工作、中学校美術）を改めて見直し、戦後日本の美術教育の歴史について、述べた。岡山大学教育学部教科教育研究会編。秋山和夫他。A5版、215頁。 |
| 7 日本美術教育史研究論説 | 単著 | 1990年10月 | 東洋文庫刊行会 | 古代から現代に至る、美術家養成の制度について、その流れを、五つの項目についてまとめた。筆者は、かねて、幼児期の美術教育の意義を説め、歴史上の美術家について、個別に調査を行っていたが、本論各章には、これらに関連した原資料の裏づけがある。A5判、325頁。 |
| 8 美術・工芸教育の理論と実践 | 共著 | 1991年5月 | 福村出版 | 「第２章　第５節　鑑賞」（119～123頁）を担当。幼稚園、小中学校教諭を目指す人たちのための美術鑑賞の意義を述べた。編著者は、石原英雄。A5判、231頁。 |
| 9 Isao Ohshima | 共著 | 1991年5月 | Isao Ohshima刊行会 | 「人と作品―大島勲　その芸術の軌跡」（109～113頁）を執筆。岡山大学教育学部において、幼稚園教諭の養成に大きく貢献した同大学名誉教授故大島勲の画業と作風展開、その芸術の意味等を解説した。大島氏は、同大学教育学部附属幼稚園園長を勤め、造形教育に係る指導は高く評価されている。本書図版には、氏の豊かな愛情と感性が示される。小川尊一他。A4版変形、119頁。 |
| 10 未知との遭遇 | 共著 | 1993年4月 | 石原英雄先生の退官を記念する出版会 | 「古代における画工の職制と養成についての研究」（pp. 48-57）を執筆。主として奈良時代の画工の職階制度と画工の養成制度を紹介し、日本美術教育史研究の視点から考察した。三田村鞆右、横山智也ほか36名　A5版，259頁。 |
| 11 美術科教育概説講義（再掲） | 単著 | 1996年4月 | 美術教育懇話会 | 幼稚園（造形・表現），小中学校（図画工作・美術）の美術教育に係る主たる項目を網羅し、解説した。幼児の描画の発達段階について、過去の研究の成果を紹介した。B5版、99頁。 |
| 12 美術教育概説講義（再掲） | 単著 | 1999年6月 | 美術教育懇話会 | 上掲書の三訂版である。B5版、120頁。 |
| 13 子どもの絵―成長と描画の発達の過程から― | 共著 | 2007年6月 | 美術評論社 | 乳幼児1～4歳までの描画作品5,000点から120点を選び、発達段階毎に分類し、解説を付した。編集者（執筆）、太田清勇。企画・レイアウト：包裕日菜吐，張春梅。B4判変型、94頁。 |
| （学術論文） | | | | |
| 1 下村観山の生涯と周辺 | 単著 | 1974年1月 | 和歌山県立近代美術館館報97号『美術館だより』 | 日本画家下村観山の生涯とその芸術を成立させた周辺の状況等について述べた。小論ではあるが、新出の資料を融合し、今後の研究を展望した。B2判、3頁。 |
| 2 碓伊之助の芸術 | 単著 | 1974年10月 | 和歌山県立近代美術館『碓伊之助展』 | 大正から昭和にかけて油彩、水彩、版画、陶磁器と幅広く活躍した碓伊之助（明治28年～昭和52年）の芸術について述べた。A4判変形、論文4頁、年譜4頁、作品目録3頁、図版31頁。 |
| 3 木下孝則調査資料ノートより | 単著 | 1975年10月 | 和歌山県立近代美術館『木下孝則回顧展』 | 画家木下孝則（昭和27年～昭和48年）についての調査資料により、伝記的事実を紹介した。A4判変形、論文5頁、年譜4頁、作品目録3頁、図版30頁。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 4　木下孝則芸術への試論 | 単著 | 1976年3月 | 和歌山県立近代美術館『昭和50年度年報』 | 画家木下孝則の芸術を探ろうとした。殊にそのすぐれた画作の本質の再評価を試みようとした。<br>A4判変形，論文5頁，年譜4頁，作品目録3頁，図版30頁。 |
| 5　神中糸子と工部美術学校 | 単著 | 1976年4月 | 和歌山県立近代美術館館報124号『美術館だより』 | わが国最初の本格的西洋画家神中糸子（万延元年～昭和18年）と彼女が第一期生として学んだ工部寮付属美術学校について述べ，神中糸子の芸術の成立と明治期の美術教育について触れた。本稿が神中糸子を研究レベルで紹介した最初のものとされる。B5判，3頁。 |
| 6　田中恭吉―生涯と作品― | 単著 | 1977年7月 | 『三彩』３５８号 | 田中恭吉の伝記的事実と作品について紹介し，従来語り伝えられてきた恭吉像を訂正しようとした。<br>A4判，論文4頁（pp. 30～33），図版14頁。 |
| 7　古代社会における女性の体育とスポーツ<br>―歴史的考察― | 共著 | 1979年12月 | 『ピーエル学園女子短期大学紀要』 | 東西の古代社会における女性の体育やスポーツを美術工芸品等の資料を通して紹介した。体育科教員との共著。筆者が主たる資料を収集し，執筆した。<br>共著者：新宅亜憲，明尾和代。太田が全文を訳出。新宅・明尾は訳文の検討。B5判，11頁。 |
| 8　ジョアン・ミロ「パイプを吸う男」について | 単著 | 1983年3月 | 富山県立近代美術館『収蔵作品についての報告1983』 | ジョアン・ミロの油彩画「パイプを吸う男」について，その成立の由来や作品の位置を資料によって述べた。<br>A4判変型，8頁（pp. 7～14）。 |
| 9　立嶽木村雅経の画論 | 単著 | 1983年12月 | 『古美術』68号 | 狩野派画師立嶽木村雅経の画論とその芸術が成立した背景について述べた。美術史学会発表に基づく。<br>A4判，24頁（pp. 112～135）。 |
| 10　立嶽木村雅経の作風（上） | 単著 | 1984年3月 | 『史迹と美術』543号 | 狩野派画師立嶽木村雅経の芸術の特質について述べた。<br>A5判，論文10頁（pp. 100～109），図版3頁。 |
| 11　立嶽木村雅経の作風（下） | 単著 | 1984年6月 | 『史迹と美術』545号 | 狩野派画師立嶽木村雅経の芸術の特質について述べた。<br>A5判，論文及び年譜5頁（pp. 190～204），図版4頁。 |
| 12　美術科教育における写実主義の意味―序論的考察― | 単著 | 1984年9月 | 『教育科学論叢』84-1号 | リアリズムの意味について述べた。<br>B5判，6頁（pp1～6）。 |
| 13　欧米の美術教育の現況―美術科教育の立場から― | 単著 | 1984年9月 | 『教育科学論叢』84-2号 | 欧米美術教育の現況について述べた。<br>B5判，8頁（pp1～8）。 |
| 14　菅井汲「ヴァリアシオンB-78」について | 単著 | 1985年9月 | 富山県立近代美術館『収蔵作品についての報告1983』 | 画家菅井汲の作品「ヴァリアシオンB-78」とその成立について述べ，菅井汲の芸術の特質について触れた。<br>A4判変型，6頁（pp. 67～72）。 |
| 15　美術教育史研究序説（1） | 単著 | 1985年10月 | 『岡山大学教育学部研究集録』70号 | 西欧古典古代における哲人たちの思想に見られる美術教育の理念と展開について述べ，それらが今日の具象，抽象美術の成立を精神的に支えているとする思想を紹介解説し，美術教育研究の序説とした。<br>B5判，10頁（pp. 99～108）。 |
| 16　日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究1<br>―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1985年10月 | 『岡山大学教育学部研究集録』70号 | 1976年4月に発表した「神中糸子と工部美術学校」以後の調査結果を集約した。主として神中糸子の生涯について記した。以下に続く本研究のシリーズは1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判，9頁（pp. 109～119）。 |
| 17　日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究2<br>―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1986年1月 | 『岡山大学教育学部研究集録』71号 | 神中糸子の作品について述べた。<br>B5判，8頁（pp. 29～36）。 |
| 18　日本美術教育史攷（2）古代における画工の職制と養成についての研究 | 単著 | 1986年1月 | 『岡山大学教育学部研究集録』71号 | 天平時代の画工の職制と養成の機構を造東大寺司を中心に主として正倉院文書を資料として述べた。本研究は，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。<br>B5判，8頁（pp. 1～8）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 19 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究1―木村立嶽雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1986年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』72号 | 木村立嶽雅経を生んだ狩野派画所の本質と奥画師、表画師始を含めた狩野派の全機構について述べた。以下に続く本研究のシリーズは，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究紀要』に加筆収載した。<br>B5判、9頁（pp. 49～57）。 |
| 20 日本美術教育史攷（4）伏屋素狄研究 1―その解剖図・実験図の成立と背景― | 単著 | 1986年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』72号 | 医師、蘭学者、画家として江戸時代中期に活躍した伏屋素狄の実験図を美術教育史的観点からとりあげた。本稿では主として素狄の出自について述べた。以下に続く本研究のシリーズは，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究紀要』に加筆収載した。<br>B5判、9頁（pp. 35～43）。 |
| 21 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究3―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1986年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』73号 | 工部美術学校における授業の形態、教育内容について述べた。<br>B5判、16頁（pp. 1～16）。 |
| 22 日本美術教育史攷（4）伏屋素狄研究 2 | 単著 | 1986年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』73号 | 伏屋素狄の背景にあって，影響の大きかったと思われる師友について述べた。<br>B5判、11頁（pp. 17～27）。 |
| 23 日本近世における美術教材についての研究―木村立嶽雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1987年3月 | 『大学美術教育学会誌』19号 | 筆者が発見した木村立嶽雅経筆粉本の全てについて紹介し，それらが狩野派画所における教育課程の中で教材としてどのような位置を占めるかについて述べた。本研究は，1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究紀要』に加筆収載した。<br>B5判、9頁（pp. 17～25）。 |
| 24 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究2―木村立嶽雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1987年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』74号 | 木村立嶽雅経の芸術生涯を、美術教育史的観点から述べた。<br>B5判、12頁（pp. 1～12）。 |
| 25 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究4―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1987年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』74号 | 工部美術学校の教官、生徒について美術教育史的観点からまとめた。<br>B5判、8頁（pp. 237～244）。 |
| 26 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究5―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1987年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』75号 | 工部美術学校の生徒について、各自の経歴画歴等を資料に拠りまとめた。今回は、女子4人を含め11人を掲載し，1878年の松岡寿のメモがきをもとにフォンタネージ送別会出席者（男子）の一覧をも付した。<br>B5判、6頁（pp. 169～174）。 |
| 27 日本美術教育史攷（4）伏屋素狄研究 3―その解剖図・実験図の成立と背景― | 単著 | 1987年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』75号 | 伏屋素狄の業績についてまとめた。特に著作について触れた。<br>B5判、6頁（pp. 157～180）。 |
| 28 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究6―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1987年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』76号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒7人の画歴や芸術生涯についてまとめた。今回は生徒の一人、五姓田義松について特に詳しく触れ、遺作の一覧表をも付した。<br>B5判、6頁（pp. 135～140）。 |
| 29 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究3 高橋千代覚書 | 単著 | 1988年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』76号 | 木村立嶽雅経の第6子、三女高橋千代による覚書の原文の一部を脚注を付して紹介した。<br>B5判、6頁（pp. 1～6）。 |
| 30 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究7―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1988年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』77号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒10人について画歴、芸術生涯をまとめた。<br>B5判、6頁（pp. 135～140）。 |
| 31 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究1 | 単著 | 1988年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』77号 | 近代日本の初等教育における図画教育の成立過程について述べた。明治以降より今日までを6期に分画し，今回は「第1期学制の公布と西洋図画教育の模倣時代」のうち，「学制の公布」前後の状況についてまとめた。<br>B5判、6頁（pp. 25～30）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 32 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究8―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1988年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』78号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒12人について画歴、芸術生涯をまとめた。B5判、7頁（pp.137～143）。 |
| 33 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究4―木村立嶺雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1988年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』78号 | 木村立嶺雅経の作風の展開についてまとめた。B5判、6頁（pp.1～6）。 |
| 34 日本美術教育史攷（3）狩野派画所における画師養成についての研究6―木村立嶺雅経筆粉本を中心に― | 単著 | 1988年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』79号 | 木村立嶺雅経の粉本9冊について述べた。B5判、10頁（pp.25～34）。 |
| 35 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究2 | 単著 | 1988年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』79号 | 前半では「小学校教則綱領」について触れ、後半では幕末維新の画学教育や明治初期の西洋画模倣時代の図画教育についてまとめた。B5判、6頁（pp.35～40）。 |
| 36 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究3 | 単著 | 1989年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』80号 | 明治期の図画教科書と描画用具についてまとめた。B5判、9頁（pp.1～9）。 |
| 37 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究9―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1989年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』81号 | 前稿につづき、工部美術学校の男子生徒5人の画歴に触れ、彼らの師であった画家アントニオ・フォンタネージの略歴についてまとめた。B5判、6頁（pp.39～43）。 |
| 38 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究4 | 単著 | 1989年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』81号 | 明治期の図画教科書について触れ、後半では「第2期国家主義を基本とした学制の確立と国粋保存の時代」を概観した。B5判、5頁（pp.27～31）。 |
| 39 日本美術教育史攷（1）工部美術学校研究10―同校出身画家・神中糸子を中心に― | 単著 | 1989年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』82号 | 前稿にひきつづき、アントニオ・フォンタネージの略歴と遺作についてまとめた。B5判、7頁（pp.13～19）。 |
| 40 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究5 | 単著 | 1989年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』82号 | 「小学校令」、「小学校教則大綱」等に触れ、「図画調掛」の設置に及んだ。B5判、7頁（pp.1～7）。 |
| 41 日本美術教育史攷（4）伏屋薫秋研究　4―その実験図の成立と特質― | 単著 | 1990年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』83号 | 伏屋薫秋の解剖図及び生理学実験記録図についてまとめた。B5判、9頁（pp.25～33）。 |
| 42 教育実習（1）―歴史的経過と現況― | 単著 | 1990年3月 | 岡山大学教育学部付属教育実習研究指導センター『教育実習研究年報』1号 | フランスの教育実習の歴史と現況について述べた。B5判、5頁（pp.73～77）。 |
| 43 中世大和地方における「絵所座」と「絵伝師」についての研究 | 単著 | 1990年3月 | 『大学美術教育学会誌』22号 | 中世大和地方の絵所座における絵師たちの動向について述べた。本研究は、1990年10月1日刊行『日本美術教育史研究叙説』に加筆収載した。B5判、10頁（pp.27～36）。 |
| 44 対照年表 | 単著 | 1990年7月 | 『岡山大学教育学部研究集録』84号 | 日本の美術教育史を軸に西洋の美術教育に関する歴史的事項を対照させ、年表にまとめた。B5判、10頁（pp.1～10）。 |
| 45 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究6 | 単著 | 1990年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』85号 | 「図画取調掛」及び「図画調査会」について述べた。B5判、7頁（pp.15～21）。 |
| 46 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究7 | 単著 | 1991年3月 | 『岡山大学教育学部研究集録』86号 | 本稿前半では、東京美術学校の設置、鉛筆及び毛筆図画教育について述べ、後半では第2期の図画教材について図画教科書を中心にまとめた。B5判、6頁（pp.1～6）。 |
| 47 教育実習（2）―歴史的経過と現況― | 単著 | 1991年3月 | 岡山大学教育学部付属教育実習研究指導センター『教育実習研究年報』2号 | ソヴィエトの教育実習の歴史と現況について述べた。B5判、8頁（pp.11～18）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 48 日本美術教育史攷（5）図画教育の成立過程に関する研究Ⅱ | 単著 | 1991年11月 | 『岡山大学教育学部研究集録』88号 | 本研究では，明治期のうち，第2期の図画教科書についてまとめた。後半では，図画教育と関連ある手工教育の創始について触れた。<br>B5判，7頁（pp. 1～7）。 |
| 49 学校と美術館<br>―相互の連携に向けて― | 単著 | 1992年9月 | 『美術館教育研究』3巻-3号 | 美術教育における学校と美術館の連携の重要性を解説した。特に鑑賞教育は今後美術教育の基盤の一つとして重要視されるであろうがその中心となるのは，美術館教育であろう。今後の美術教育の発展の鍵となる課題であると説えた。<br>A4判，4頁（pp. 6～9）。 |
| 50 教育鑑賞への提言 | 単著 | 1993年4月 | 『フォルム』226号 | 鑑賞教育を推進するためには，美術館の利用を通しての実際の作品の紹介と，美術教科書の図版等を使用しての，必要最小限の美術史の知識の注入が有効であろうと述べた。美術の本質を子どもたちに理解させるには，これが最重要であることを述べた。<br>B5判，4頁（pp. 2～5）。 |
| 51 粉本研究―木村立嶽雅筆「皇朝名画品山水編図」 | 単著 | 1994年1月 | 『史遊と美術』641号 | 近世末，明治初年に活躍した狩野派画師木村立嶽雅経の表記粉本の全容を紹介，その位置と意味とを論じた。<br>A5判，論文及び図版19頁（pp. 16～34）。 |
| 52 描画能力と知能の発達に関する相関分析的研究 | 単著 | 1995年3月 | 『大学美術教育学会誌』27号 | ひとの描画能力はその精神年齢（MA）に相応の発達段階にあることを，優秀児と知的障害児双方の事例によって証明した。本研究は1994年11月28日，アメリカ合衆国インディアナ州ニューハーモニーにおける「アメリカ美術教育研究大会」で口頭発表した。<br>B5判，10頁（pp. 265～274）。 |
| 53 描画能力と知能の発達に関する相関分析的研究<br>―精神遅滞児を中心に― | 単著 | 1996年3月 | 『大学美術教育学会誌』28号 | 特に精神遅滞児について述べた。IQ7～10，IQ20～30，IQ35～45の3群に分けて検討し，それぞれが，特定の描画の段階に留まり，生涯それ以上発達進歩のないことを証明した。B5判，10頁（pp. 235～244）。 |
| 54 描画能力と知能の発達に関する相関分析的研究 | 単著 | 1997年2月 | 『大学美術教育学会誌』29号 | 人に知的障害がある場合，その人の描画は，その人の精神年齢相応の描画の発達段階に留まっていることを，資料によって証明した。<br>B5判，9頁（pp. 175～183）。 |
| 55 クリスト芸術の構想と展開をめぐって | 単著 | 1998年12月 | 『美と育』4号 | アメリカ，ニューヨークを拠点に世界で活躍する現代作家クリストの芸術について，その本質をまとめた。<br>A4判，6頁（pp. 21～26）。 |
| 56 金山康喜の人と芸術をめぐって | 単著 | 2000年7月 | 『金山康喜』朝日新聞社 | 1960年代に活躍し，夭折した画家金山康喜の芸術についてまとめた。金山は新進気鋭の経済学者としても嘱望された多才の人であった。<br>A4判，5頁（pp. 88～92）。 |
| 57 久保貞次郎論―創造美育活動初期まで | 単著 | 2001年10月 | 『上越教育大学研究紀要』21-1号 | 第二次大戦後，創造主義美術教育を創始し，全国的な活動に展開した久保貞次郎の生涯をまとめた。<br>B5判，11頁（pp. 369～379）。 |
| 58 久保貞次郎論―初期著作を中心に | 単著 | 2002年3月 | 『上越教育大学研究紀要』21-2号 | 久保貞次郎の初期の評論・エッセイを中心に，彼の思索の跡を追った。<br>B5判，9頁（pp. 477～485）。 |
| 59 久保貞次郎論―初期の交友を通して | 単著 | 2002年10月 | 『上越教育大学研究紀要』22-1号 | 久保の初期の交友を通して，彼の芸術活動がどのように展開していったかを振り返った。<br>B5判，8頁（pp. 37～44）。 |
| 60 久保貞次郎論―初期の交友・瑛九を中心に | 単著 | 2003年3月 | 『上越教育大学研究紀要』22-2号 | 久保の友友・瑛九とその交流について述べた。<br>A4判，7頁（pp. 315～321）。 |
| 61 久保貞次郎論―ライトとミラーの周辺 | 単著 | 2003年9月 | 『上越教育大学研究紀要』23-1号 | 久保がアメリカで直観洞識を得たライトとミラーについて述べた。この2人によって，久保の芸術への思いは深められていった。<br>A5判，12頁（pp. 303～314）。 |
| 62 久保貞次郎論―ヴィオラとチイゼックをめぐって | 単著 | 2004年3月 | 『上越教育大学研究紀要』23-2号 | 久保が思想上，深く影響を受けたヴィオラとチイゼックについて述べた。<br>A5判，10頁（pp765～774）。 |
| 63 久保貞次郎論―小コレクター運動と版画収集をめぐって | 単著 | 2004年9月 | 『上越教育大学研究紀要』24-1号 | 久保の活動の核ともいえる小コレクター運動について述べた。<br>B5判，11頁（pp. 219～229）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 64 馬頭観世音菩薩考ー儀軌・図像部掲出図像から見た越後柏崎石彫諸仏ー | 単著 | 2005年8月 | 『史迹と美術』757号 | 柏崎市内に見く見られる馬頭観音の石仏を調査し、紹介した。<br>A5判，11頁（pp.262～272） |
| 65 孔雀明王経法とその図像表現をめぐって | 単著 | 2007年6月 | 『史迹と美術』763号 | 孔雀明王経法の今日的意味を図像の作例について解説した。<br>A5判，10頁（pp.1～10）。 |
| （その他） | | | | |
| 1 移動美術館開催にあたって | 単著 | 1974年2月 | 和歌山県立近代美術館報98号<br>『美術館だより』 | 移動美術館に係る展示解説。移動美術館開設の理念を述べ、和歌山県出身作家の紹介も行った。<br>B5判，2頁。 |
| 2 版画芸術の流れ | 単著 | 1974年4月 | 和歌山県立近代美術館報100号<br>『美術館だより』 | 東西の版画史を略述し、日本の明治末・大正初期の創作版画の史的意義、昭和期の版画団体史、第二次大戦後の国際的状況や技法、イズムの多様化にも触れた。種々の新出資料を短文にまとめた。<br>B5判，2頁。 |
| 3 セザンヌ展 | 単著 | 1974年7月 | 和歌山県立近代美術館報102号<br>『美術館だより』 | 特別企画展、展示解説。セザンヌの画歴と作品制作原理について触れた。<br>B5判，1頁。 |
| 4 和歌山から巣立った主要作家の世界 | 単著 | 1974年7月 | 和歌山県立近代美術館報103号<br>『美術館だより』 | 常設企画展に係る展示解説。和歌山県出身作家の芸術世界を新資料によりつつ紹介した。<br>B5判，2頁。 |
| 5 谷伊之助の絵画と陶芸 | 単著 | 1974年8月 | 和歌山県立近代美術館報104号<br>『美術館だより』 | 特別企画展に係る展示解説。大正末、昭和初期、画家として活躍する谷伊之助の芸術世界を紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 6 聖なるモノグラムについて | 単著 | 1975年2月 | 和歌山県立近代美術館報110号<br>『美術館だより』 | 古代・中世以来のキリスト教美術におけるモノグラムの実例について整理し、美術鑑賞の手掛かりとして紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 7 移動美術館開催にあたって | 単著 | 1976年6月 | 和歌山県立近代美術館報126号<br>『美術館だより』 | 移動美術展に係る展示解説。<br>B5判，3頁。 |
| 8 田中恭吉展開催にあたって | 単著 | 1977年2月 | 和歌山県立近代美術館報128号<br>『美術館だより』 | 特別企画展の紹介。<br>B5判，2頁。 |
| 9 天才版画家の生涯　夭折した田中恭吉 | 単著 | 1977年3月 | 読売新聞文化欄関西版 | 田中恭吉及び田中恭吉展についての紹介。 |
| 10 田中恭吉展をおえて | 単著 | 1977年4月 | 和歌山県立近代美術館報135号 | 特別企画展の総括。<br>B5判，2頁。 |
| 11 古代西洋社会における女性とスポーツ（1）（リート・ホーウェル） | 単著 | 1979年7月 | ピーエル学園女子短期大学通信教育部　補助教材『マイフレンド』5号 | "Woman and Sports in Ancient Western World"（Reat Howell）の和訳<br>A5判，10頁（pp.30-39）。 |
| 12 古代西洋社会における女性とスポーツ（2）（リート・ホーウェル） | 単著 | 1979年12月 | ピーエル学園女子短期大学通信教育部　補助教材『マイフレンド』5号 | "Woman and Sports in Ancient Western World"（Reat Howell）の和訳。前稿の続編。<br>A5判，16頁。 |
| 13 A Breath of International Creative Art for Toyama (Masataka Ogawa) | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『第1回富山国際現代美術展』 | 「国際的な創造の息吹を富山に」（小川正隆）の英訳<br>A4判変形，5頁（pp.6-10）。 |
| 14 富山国際現代美術展によせて（ポントウス・フルテン）序文　フランス現代美術の諸相（アルフレッド・パックマン）本文 | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『第1回富山国際現代美術展』 | "Quelques Aspects de l'Art Actuel en France"（Alfred Pacquement）の和訳。<br>A4判変形，6頁（pp.39-44）。 |
| 15 マリノ・マリーニ「ある情想のかたち」 | 単著 | 1981年7月 | 富山県公報『とやま』150号 | 作品解説。マリノ・マリーニの人と作品について述べた。<br>B5判，2頁。 |
| 16 木村立獄ーその画業にふれてー | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』創刊号 | 近世末、明治にかけて活躍した狩野派画師木村立獄（文政11年～明治23年）の画業について述べ、その後の研究の契機となる新出資料の紹介を行った。<br>B5判，2頁。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 17 第1回現代芸術祭<br>瀧口修造と戦後美術 | 単著 | 1981年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』５号 | 特別企画展，展示解説。戦後日本の現代美術を総括する意図のもと，企画を立案した。<br>B5判，2頁。 |
| 18 マルク・シャガール<br>「山羊を抱く男」 | 単著 | 1981年7月 | 北日本新聞文化欄 | 作品解説。シャガールの代表作で，富山県立近代美術館所蔵の本作品を紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 19 アンディ・ウォーホル<br>「マリリン・モンロー」 | 単著 | 1981年7月 | 北日本新聞文化欄 | 作品解説。ポップアートの旗手ウォーホルの富山県立近代美術館所蔵の作品を紹介し，アメリカ現代美術を概観した。<br>B5判，1頁。 |
| 20 ジャコモ・マンズー<br>「着衣の少女」 | 単著 | 1981年11月 | 富山県公報『とやま』154号 | 随想，作品解説。イタリアの現代具象彫刻家マンズーの代表作の富山県立近代美術館収蔵を機に紹介し，解説した。<br>B5判，2頁。 |
| 21 富山県立近代美術館の活動 | 単著 | 1981年12月 | 『博物館研究』16巻12号 | 新設された富山県立近代美術館の作品収集，調査研究活動について，現状と今後の方針を述べた。<br>太田博勝担当部分<br>（1）収集活動<br>（2）調査研究活動<br>B5判，5頁（pp.30～32，34～35）。 |
| 22 瀧口修造「私の心臓は時を刻む」 | 単著 | 1982年7月 | 富山県公報『とやま』162号 | 随想，作品解説。戦後日本の美術界を主導してきた瀧口修造自らが造ったデカルコマニー作品の逸作を紹介した。富山県立近代美術館所蔵作品。<br>B5判，2頁。 |
| 23 ジャック・ヴィヨン | 単著 | 1982年7月 | 月間『あした』7-1982 | 随想，作品解説。デュシャン兄弟の1人，ジャック・ヴィヨンの芸術を，富山県立近代美術館所蔵作品の解説も兼ねて紹介した。<br>B5判，2頁。 |
| 24 瀧口修造のこと | 単著 | 1982年9月 | 富山県立近代美術館『プリズム』２号 | 随想，作品解説。瀧口修造の生涯と人となりを，関連の作品の解説を併せて述べた。<br>B5判，1頁。 |
| 25 豊秋半二「深山回情」 | 単著 | 1982年10月 | 富山県公報『とやま』165号 | 随想，作品解説。豊秋半二の代表作で，富山県保有の同作品を紹介した。<br>B5判，1頁。 |
| 26 脇田和「鳥寄せ」 | 単著 | 1983年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』９号 | 随想，作品解説。脇田和の昭和初年の同作品を紹介した。同作品は，同年購入した富山県立近代美術館作品。<br>B5判，1頁。 |
| 27 海外美術館視察<br>イタリア | 単著 | 1983年7月 | 富山県立近代美術館『どおむ』９号 | 視察報告も兼ねたエッセー。イタリア政府招請の同国美術・文化財施設視察旅行（同年5月）の報告である。3週間にわたり，イタリア半島（カセルタ～フィレンツェ）20都市をバスと列車で巡った。同行者は，外交官ジオルジオ・デ・マルキス氏，通訳官古川上子氏，全国公立美術館学芸員9名であった。<br>B5判，1頁。 |
| 28 反芸術 | 単著 | 1983年11月 | 富山県立近代美術館『どおむ』１０号 | 現代の芸術用語の解説。用語を通して現代美術を伝えようとした。<br>B5判，１頁。 |
| 29 松尾敏男「井波」 | 単著 | 1983年12月 | 富山県公報『とやま』179号 | 随想，作品解説。松尾敏男の代表作で，富山県井波で取材した同作品を解説した。<br>B5判，2頁。 |
| 30 パブロ・ピカソ<br>「肘かけ椅子の女」 | 単著 | 1983年12月 | 月刊『PL』83-12 | 随想，作品解説。ピカソの新古典主義時代の世界に誇る優品「肘かけ椅子の少女」を解説した。同作品は，富山県立近代美術館の所蔵。<br>B5判，2頁。 |
| 31 金山康喜，宮井浩，田部安一，野見山暁治展 | 単著 | 1984年4月 | 富山県立近代美術館『どおむ』１１号 | 特別企画展に係る展示解説。1960年後半，パリで画家修業をした4人の作家について，回顧的企画を組んだ。この企画の趣旨と主要な作品について解説した。<br>B5判，2頁。 |
| 32 金山康喜「静物」 | 単著 | 1984年4月 | 北日本新聞<br>日曜ギャラリー | 作品解説。夭折の画家金山康喜の代表作を解説した。富山県立近代美術館所蔵作品。 |
| 33 金山康喜「静物－U」 | 単著 | 1984年4月 | 北日本新聞<br>日曜ギャラリー | 作品解説。夭折の画家金山康喜の代表作を解説した。富山県立近代美術館所蔵作品。 |
| 34 あれか，これか<br>（トレルス・アンデルセン） | 単著 | 1984年7月 | 富山県立近代美術館『第2回富山国際現代美術展』 | "Either…or…"（Truels Andersen）の和訳。A4判変形，4頁（pp.72～75）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 35 ジョアン・ミロ「パイプを吸う男」 | 単著 | 1984年8月 | 北国新聞、富山新聞「名品小径」（同時掲載） | 作品解説。ミロの代表作で、富山県立近代美術館所蔵の同作品を解説し、ミロ芸術の本質を述べた。 |
| 36 前田常作「人間誕生 No.5」 | 単著 | 1984年10月 | 富山県『職員だより』85号 | 随想。作品解説。富山県出身画家前田常作の初期作品を解説した。富山県立近代美術館所蔵作品。B5判、2頁。 |
| 37 アイデンティティの誕生―美術館学芸員について― | 単著 | 1987年10月 | 芸術批評誌『オリヴィア』 | 筆者が、2つの美術館に勤務した体験から美術館学芸員として「アイデンティティ」を確立することについて、二・三の感想を述べた。B5判、2頁。 |
| 38 心をいやす場所 | 単著 | 1991年3月 | 社団法人富山県精神保健協会『こころの健康』 | 人の心のもろさや、心をいやすに有効な「場」を筆者が見聞した体験を踏まえて述べた。末尾に美術教育の可能性について触れた。B5判、3頁。 |
| 39 磯部錦司展 | 単著 | 1993年3月 | 『新潟日報』 | 上越教育大学大学院修了生で現代作家の磯部錦司の個展が開催されるに当たり、その芸術と作品を紹介した。君は、日本海美術展（富山県立近代美術館）で大賞を受けるなど、現在注目されつつある作家。優れた中学校美術教師でもある。 |
| 40 学校と美術館 | 単著 | 1994年7月 | 『アートーデュケーション』 | 学校現場と美術館の連携を具体例を挙げて述べた。美術科がその真の意味を問い、その理想や価値を実現するためには、美術という基盤を共有する美術館との提携・連携が有効と思われる。A5判、1頁。 |
| 41 子どもの主体的・創造的な「学び」について | 単著 | 1994年12月 | 『教育創造』118号 | 新しい教育観に立った子どもの主体的・創造的な「学び」について解説し、教育現場での実践が今後どうあるべきかを考えた。A5判、6頁（pp. 6～11）。 |
| 42 地方の意味と価値 | 単著 | 1995年2月 | 『ナーダ』VOL.3 | 地方にあって芸術を志す意味と価値とについて論じた。地方に住む作家たちが、地方という「状況」を生かしながら、質の高い芸術を創造することは可能だろうか。「地方」の意味を問うた。A5判、4頁（pp. 35～38）。 |
| 43 今後の国際交流に期待して | 単著 | 1996年2月 | 『インディアナ州美術教育視察報告書』1994. 10. 23～11. 5 | インディアナ州と上越市の両美術教育団体の交流とその成果を報告した。A4判、2頁（pp. 10～11）。 |
| 44 小学校図画工作科の授業分析「みんなの遊びを描こう」 | 単著 | 1996年3月 | 『教育創造』119号 | 鑑賞教育についての授業（上越教育大学附属小学校梅澤崇教諭による）を分析し、その意味を問うた。子どもたちが企画した美術展や従来の考えにとらわれない古典鑑賞など、未来の美術教育を占う多様な要素を検討した。A5判、2頁（pp. 68～69）。 |
| 45 上越大会に期待して | 単著 | 1995年11月 | 『第39回新潟県美術教育研究会 伸びやかな表現と鑑賞の高まりを求めて』 | 同研究会の趣旨を体し、大学教員の立場から美術教育の意義を述べた。A4判、1頁。 |
| 46 美術の教育内容をスリム化するとすればどうすればよいか | 単著 | 1996年7月 | 教育開発研究所『スリムな学校への転換』2号 | 美術科の教育内容のスリム化について提案した。A4判、4頁（pp. 183～186）。 |
| 47 美術科において教育から学習への転換を図るにはどうしたらよいか | 単著 | 1996年11月 | 教育開発研究所『スリムな学校への転換』4号 | 子どもの主体的な学習のあり方について、美術科の立場から具体案を提示した。A4判、4頁（pp. 122～125）。 |
| 48 書評： 新刊紹介・鬼丸吉弘著『創造的人間形成のために―子どもの絵を考える―』（勁草書房） | 単著 | 1997年2月 | 『美育文化』（47-2） | 本書評は、表記の書の著者・鬼丸吉弘氏から依頼を受け、『美育文化』誌（平成9年2月号）に執筆し、掲載されたものである。原著は、幼児の描画のスキルの発達を中心に、最新の知見をまとめたもので、高い評価を得ている。B5判、1頁（p. 62）。 |
| 49 図画工作・美術における教育課程の柔軟化を図るリーダーシップ | 単著 | 1999年2月 | 教育開発研究所『新しい学校を創るリーダーシップ』 | 従来の形にとらわれない柔軟でコンパクトな図工・美術の教育課程とはいかなるものかを考えた。5頁（pp. 156～161）。 |
| 50 美術教育のすすめ―生命科学的見地から― | 単著 | 2002年10月 | 『上越タイムス』 | 生命科学の観点から、美術教育が大切であることを論じた。1頁。 |
| 51 宋画研究 | 単著 | 2002年10月 | 『上越芸術彙報』1号 | 中国絵画の最高峰とも考えられる南北宋画について紹介した。A4判、2頁（pp. 9～10）。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 著書，学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 52 日本理論心理学会第48回全国大会開催にあたって（大会委員長） | 単著 | 2002年11月 | 『日本理論心理学会全国大会要項』 | 学会の開催趣旨を、専門の立場から述べた。A4判、1頁。 |
| 53 造形芸術・美術は教科たりえるか | 単著 | 2002年11月16日・17日 | 日本理論心理学会『発表要旨集』 | 学会口頭発表の概要。美術科の存在の意義を論じた。A4判、1頁。 |
| 54 造形芸術・美術は教科たりえるか | 単著 | 2003年3月 | 『理論心理学研究』 | 同年度の学会での口頭発表の要旨をもとに、当該教科の存在の意味を述べ、存続の危機について所感を示した。A4判、1頁。 |
| 55 杉みき子童話作品（英訳及び英米人によるDVD吹き込みについて監修） | 共著 | 2003年11月 | 高田文化協会 | 高田文化協会創立30周年記念事業の一環として、童話作品の英訳と英語での朗読の監修を行った。 |
| 56 数々の感動「みずえ」に託し | 単著 | 2004年1月17日 | 『新潟日報』 | 小林新治水彩画展展評。「にじみ」の原理を応用した制作原理に言及した。 |
| 57 越後高田の風物、三十数点に | 単著 | 2004年8月2日 | 『新潟日報』 | 渡部等油絵展展評。作者のすぐれた画作を紹介した。 |
| 58 時の扉開く玉手箱／渡部等・国見修二「ふるさとの記憶―祈り―」書評 | 単著 | 2004年10月17日 | 『新潟日報』 | 書評。詩と画を融合した本書の魅力と意義を説いた。 |
| 59 そこかしこに秋いと深まし | 単著 | 2005年9月27日 | 『新潟日報』 | 渡辺等展展評。作品のもつ優かさ、作者が作品に託した思いを解説した。 |
| 60 上越「お馬出し通り」アート飾り町おこし | 単著 | 2005年10月6日 | 『新潟日報』 | 地域振興の立場から「お馬出し」の意味と歴史を紹介し、可興しの意義を説いた。 |
| 61 「お馬出し」は幸せのシンボル | 単著 | 2006年4月16日 | 『上越タイムス』 | 「お馬出し」の意味を具体的に説明した。 |
| 62 周到な構成で感謝と愛表現 | 単著 | 2006年7月28日 | 『新潟日報』 | 渡辺等油絵展展評。構成力の見事さを解説した。 |
| 63 私と美術とのかかわり | 単著 | 2007年1月 | 『こみていす』22号 | 幼時体験から、美術とのかかわりを述べ、美術の魅力に触れた。A4版、1/2頁。 |